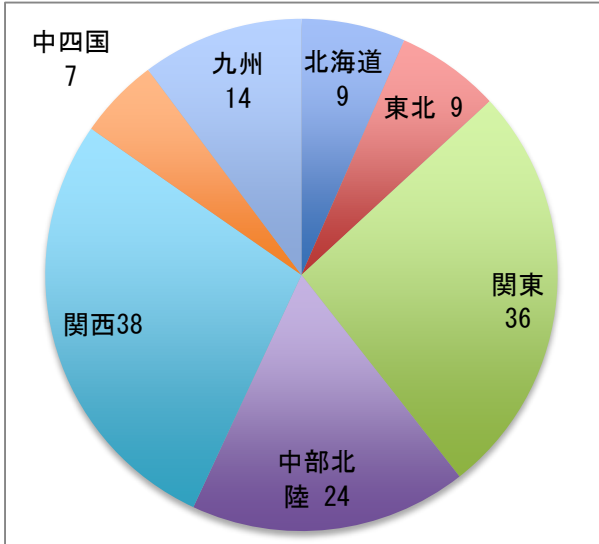


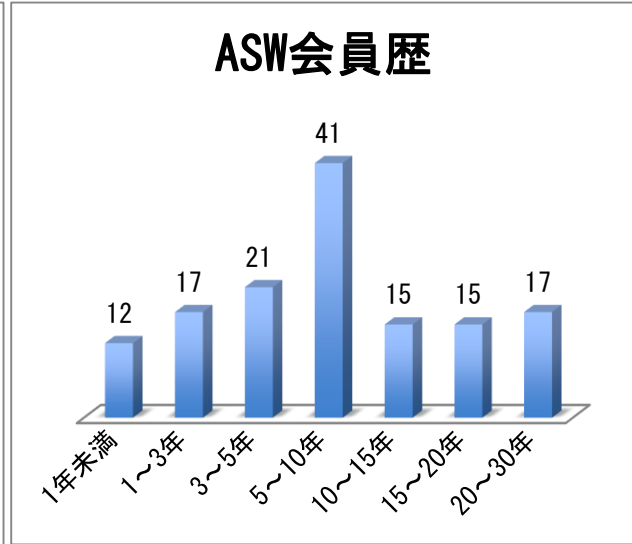
## ASW 協会研修に関するアンケート結果

### I 基本属性について

① 所属機関の所在地（有効回答 138）



② ASW 会員歴（有効回答 138）



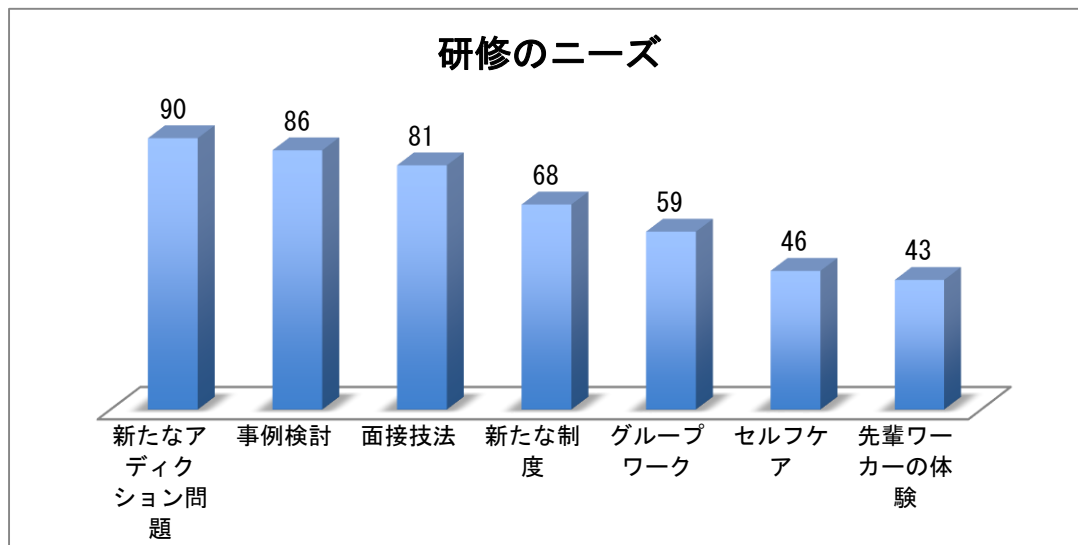
### II 研修事業について

① ASW 研修の必要性（有効回答 138）

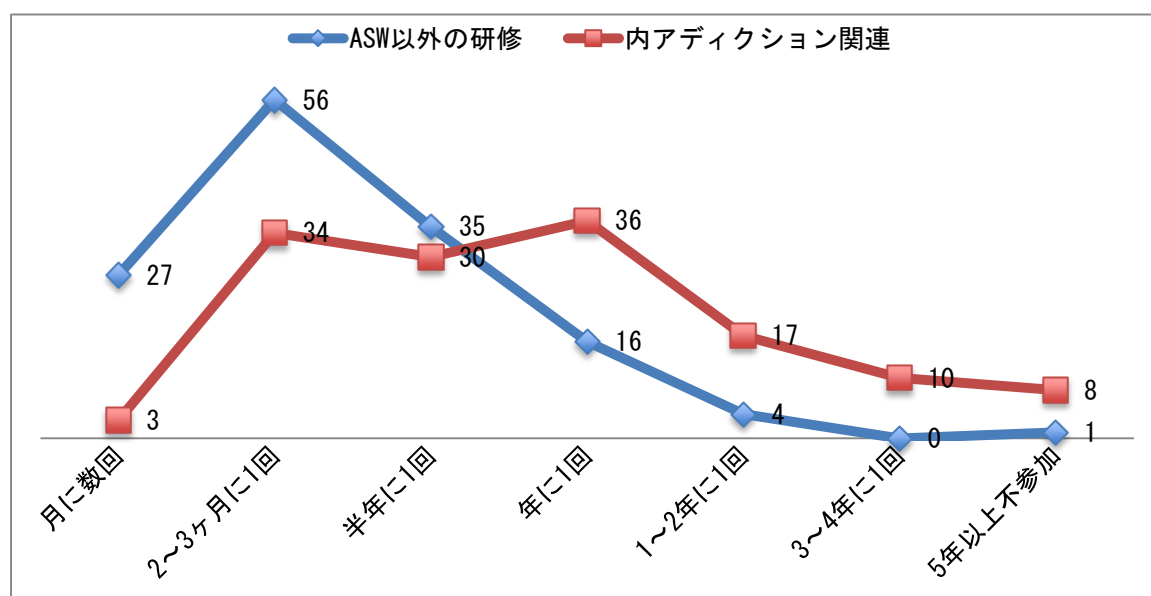
必要だと思う	136
必要だと思わない	2

98.5%の会員がASW協会の研修を必要と感じている。

② 今後参加したい研修内容（複数回答可）



③ ASW 協会主催ではない研修への参加と内アディクション関連研修への参加頻度



ASW 協会主催ではない研修への参加頻度については、2～3ヶ月に1回程度の参加が中心であった。また、その内アディクション関連の研修への参加頻度については年に1回程度が中心であった。

④項目間の関連とその特徴について

◇ ASW 会員歴による研修ニーズ（複数回答）の特徴

以下に ASW 会員歴別のそれぞれの研修ニーズの総数を示す。

ASW 会員歴	1年未満	1~3年	3~5年	5~10年	10~15年	15~20年	20~30年	合計
(会員数)	(12)	(17)	(21)	(41)	(15)	(15)	(17)	(138)
新たなアディクション問題	4	15	14	23	15	7	12	90
事例検討	8	12	13	23	11	10	9	86
面接技法	5	12	8	26	13	6	7	79
新たな制度	3	12	8	23	11	6	5	68
グループワーク	3	8	10	19	6	7	6	59
セルフケア	6	8	9	9	5	5	4	46
先輩ワーカーの体験	6	9	7	11	3	5	2	43

これらのうち、有意差が認められた項目<sup>1</sup>について以下に示す。

◆10～15年のASW 会員は面接技法に関する研修ニーズが高い (F=2.349,p>0.05)

<sup>1</sup>ASW 会員歴とそれぞれの研修ニーズの関連について一元配置分散分析を用いて比較し、有意差が認められた項目についてその後の検定を実施した。なお、統計学的解析には SPSS for Windows version 17. 0 を用い、両側検定にて P<0.05 を有意水準とした。

- ◆1年未満のASW会員は新たな制度 (F=2.545, p>0.05)、新たなアクション (F=3.99, p>0.01) に関する研修ニーズが低い

◇ 所在地と研修参加頻度

以下に所在地とASW協会以外のアクション関連研修の参加頻度について示す。尚、分析にあたり所在地を北海道・東北、関東、中部北陸、関西、中四国・九州と5分類とし、研修参加頻度を2～3ヶ月に1回以上、半年に1回、年に1回、1～2年に1回以下の4分類とした。

参加頻度	2～3ヶ月に1回以上	半年に1回	年に1回	1～2年に1回以下	合計
北海道・東北	5	8	2	3	18
関東	11	3	11	11	36
中部・北陸	1	5	9	9	24
関西	17	8	8	5	38
中四国・九州	3	6	5	7	21

これらのうち、有意差が認められた項目<sup>2</sup>について以下に示す。

- ◆関西のASW協会以外のアクション関連研修への参加頻度が高い傾向 (F=4.306, p>0.05)

⑤研修事業に関する自由記述まとめ

- ◇ 会員のニーズをふまえた研修内容にしてほしい
- ◇ 総合的・包括的な研修内容を
- ◇ ASW協会会員以外も視野に入れた研修を
- ◇ 地方で研修を開催してほしい 等

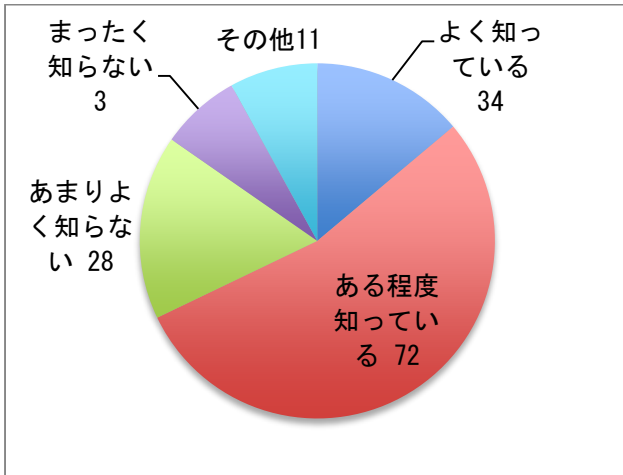
⑥研修事業に関するまとめ

- ◇ 研修のニーズは非常に高いことが明らかになったが、自由記述からはさらなる改善が必要であることも推察された。
- ◇ 地域や会員歴による一定の傾向も示唆されたため、以下の点を考慮した研修制度を検討していく。
  - ◆ アクション関連研修の参加頻度の低い地方に焦点化して研修開催を検討
  - ◆ 経験年数別に研修テーマを焦点化していく
    - 1年未満の会員対象に基礎的な知識提供
    - 中堅会員対象に面接技法などの実践的な研修提供 等

<sup>2</sup>所在地とASW協会以外のアクション関連研修の参加頻度の関連について一元配置分散分析を用いて比較し、有意差が認められた項目についてその後の検定を実施した。

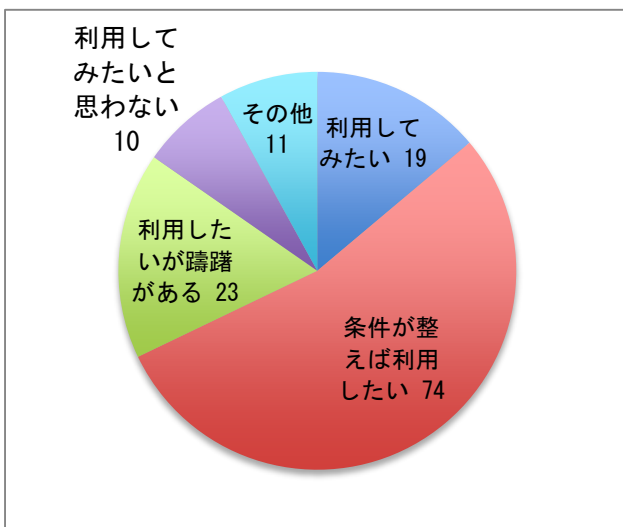
### Ⅲ スーパービジョン（以下 SV）事業について

#### ① ASW の SV 事業認知度（有効回答数 137）



「よく知っている」・「ある程度知っている」を含めると 67.8%の ASW 会員が SV 事業について認知している。

#### ② SV 利用希望（有効回答数 138）

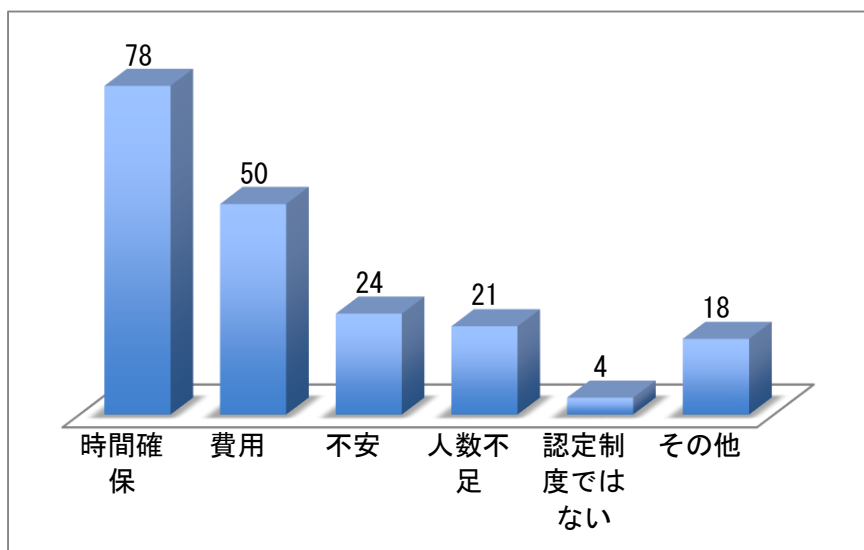


一方、「条件が整えば利用したい」・「利用したいが躊躇がある」を含めると 70.2%の ASW 会員が SV 事業の利用に何らかの支障を感じていることが明らかとなった。

#### ③ SV を利用してみたいと思わない理由まとめ

- ◇ 現在 SV の必要性がない 3
- ◇ スーパーバイザーの質が分からない 3
- ◇ SV 事業の質が分からない 2
- ◇ アルコール関連問題の事例が少ない 1
- ◇ システムが不明 1

④ SV 利用上の困難点（複数回答可）



◇ その他

- ・現在アディクション関連問題に関わっていない 7
- ・動機があがらない 4
- ・所属地域にスーパーバイザーが少ない
- ・情報不足
- ・現在の所属機関で SV を受けている

最も多い回答は「時間確保」が困難で SV を利用できないという理由であったが、それ以外の「費用」・「不安」・「(グループ SV の場合の規定) 人数不足」などの困難点については、今後の SV 事業に改善の余地があることが明らかとなった。

⑤項目間の関連とその特徴について

◇ASW 会員歴と SV 認知度

以下に ASW 会員歴と SV 認知度について示す。尚、分析にあたり ASW 会員歴を 5 年未満・5～10 年・10 年以上の 3 分類とした。

SV 認知度	よく知っている	ある程度知っている	あまりよく知らない	まったく知らない	合計
5 年未満	5	21	20	3	49
5～10 年	9	28	4	0	41
10 年以上	20	23	4	0	47
合計	34	72	28	3	137

これらのうち、有意差が認められた項目<sup>3</sup>について以下に示す。

◆5 年未満の ASW 会員はそれ以上の会員と比較し SV 認知度が低い (F=17.115,p>0.01)

◇所属地域と SV の利用困難

以下に所在地と SV 利用上の困難の各項目について示す。尚、分析にあたり所在地を北海道・東北、関

<sup>3</sup>ASW 会員歴と SV 認知度の関連について一元配置分散分析を用いて比較し、有意差が認められた項目についてその後の検定を実施した。

東、中部北陸、関西、中四国・九州と5分類とした。

所在地	北海道 ・東北	関東	中部・ 北陸	関西	中四国 ・九州	合計
(会員数)	(18)	(36)	(24)	(38)	(21)	(137)
時間確保	7	21	13	23	13	77
費用	9	10	9	15	7	49
不安	4	5	6	6	3	24
人数不足	2	11	3	1	4	21
認定制度で はない	0	3	0	1	0	4

これらのうち、有意差が認められた項目<sup>4</sup>について以下に示す。

◆関東ではグループSV利用の場合の人数不足を困難性として挙げる人が多い ( $F=3.171, p>0.05$ )

#### ⑥SV事業に関する自由記述まとめ

- ◇ SV事業についてより詳細な情報提供を
- ◇ ASW協会会員以外を対象にしていくことを視野に
- ◇ 地域ごとの開催もしくは定例化を
- ◇ より詳細な工夫を 等

#### ⑦SV事業に関するまとめ

- ◇ SV事業に対する認知度はあるものの、費用面や不安感、情報不足などが支障となり利用を妨げていることが明らかとなった。
- ◇ SVに対する情報不足を指摘する声は特に多く、スーパーバイザーの詳細やシステムにかんする情報提供をより工夫していくと同時に、公開SVなどの形式で実際の内容を広く普及していくことが今後の課題となる。
- ◇ 関東ではグループSVの人数不足という困難点がその特徴として挙げられたが、これまでグループSVが実施されてきた経緯からより具体的な困難点が挙げられたことが推察される。今後は関東以外での「お試し出張SV」の開催や、経験歴の短いASW会員に焦点化した情報提供などの検討が必要となる。
- ◇ また、ASW協会会員以外のニーズも指摘されており、ASW協会の財産とも言える経験的知識・技術の継承において、協会会員以外を視野に入れていくことも必要となっていく。

<sup>4</sup>所在地とSV利用上の困難の各項目の関連について一元配置分散分析を用いて比較し、有意差が認められた項目についてその後の検定を実施した。